

平成 30 年度がん教育総合支援事業 がん教育推進校実践報告	【実践テーマ〈キーワード〉】
札幌市立中の島中学校	がん教育を通じて正しい知識を身に付け、自分や家族の健康や命の大切さについて主体的に考える態度を育てる。
学級数：11（3）学級 生徒数：379（11）人	〈キーワード〉 保健体育科、がん専門医、川柳

1 はじめに

本校では、学校教育推進の重点の一つに、「健康で安全な生活を大切にする態度を育てる教育の充実」を掲げ、健やかな心身の育成に向けて、教育活動全体を通じて指導の充実に努めている。

また、本校では、平成 29 年度に札幌市で策定された「札幌市がん対策推進プラン」に伴い、保健体育科保健分野の授業等でがん教育を進めてきたが、これまでの取組だけでは、がんについての正しい理解や命の大切さを考えることは十分ではなかった。

がんに関する基本的な知識等を理解するとともに、命の大切さや自己の生き方について主体的に考えることができる生徒の育成を図るがん教育を実践することを目的として、本事業を推進することとした。

2 実践

(1) 外部講師の講話（特別活動）の前後に実施した保健体育科の授業（3 学年）

外部講師の講話の前に、喫煙と健康について、正しい知識を習得するとともに、健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に向けた話合いや意見交換を行った。



がんや生活習慣病を「自分のこと」として考えるため、保健体育科教諭（身近な人）の生活習慣の改善点について考えた。

外部講師の講話の後には、生活習慣病を引き起こす要因と予防の方法等について科学的根拠に基づいて理解を深め、健康診断やがん検診などで早期に異常を発見できることや、病状の回復について触れる学習を行った。

(2) がん専門医による講話（3 学年）

北海道がんセンター院長の加藤氏による講話を実施し、生徒は、がん罹患することや治療方法等について理解するとともに、自他の健康に関心をもち、生活習慣の改善に向けた意識を高めることができた。

講師との事前の打合せでは、事前に実施した保健体育科の学習内容を伝え、内容が重複しないよう配慮した。

(3) 特別の教科道徳（3 学年）

がん罹患した中学 2 年生の生徒の作文（道徳副読本）を題材として、生命の尊さについて考える学習を実施した。

(4) 「川柳・メッセージ」を考える

学習のまとめとして、札幌市保健福祉部主催の「札幌市民のがん予防『川柳・メッセージ』」に応募し、市民にがん予防を啓発する活動を行った。

最優秀賞

「始めよう みんなで早めのがん予防
そのいのち あなただけのものじゃないから」

（3 年 高谷 采佳 さん）

優秀賞

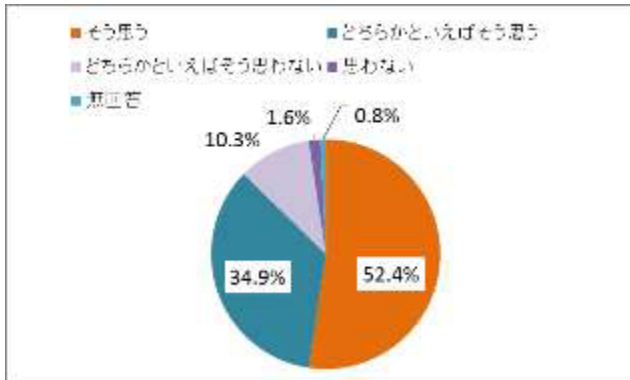
「潜む影 体蝕む その前に
声かけあおう 定期検診」

（3 年 大西 寿々 さん）

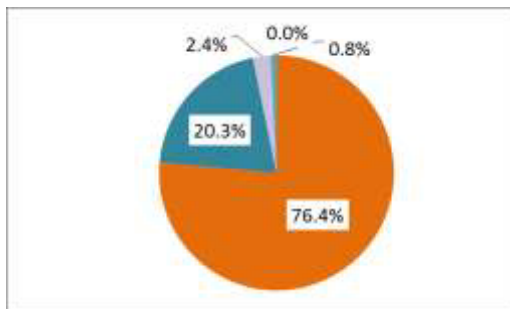
3 生徒アンケートの結果

- がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。

(実施前)

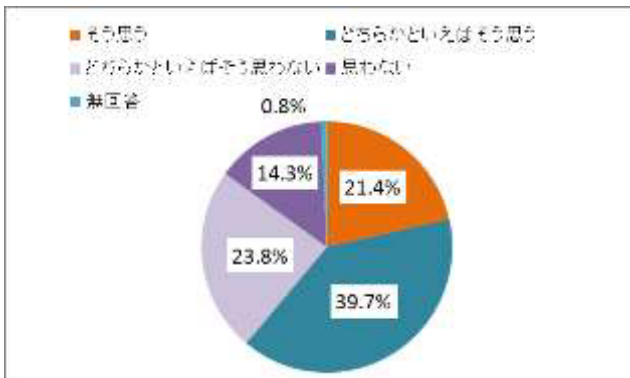


(実施後)

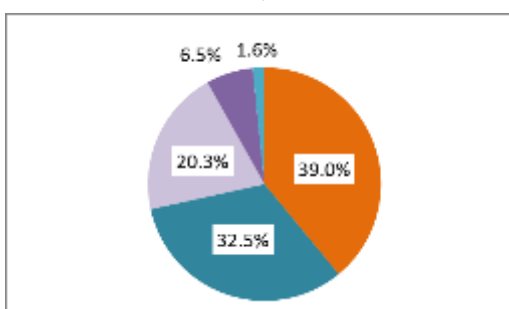


- がんになっても生活の質を高めることができる。

(実施前)

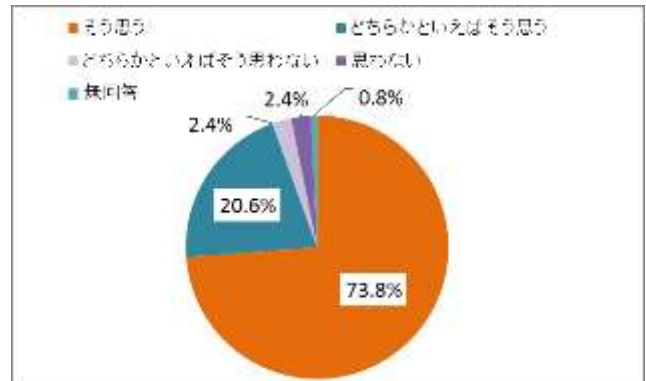


(実施後)

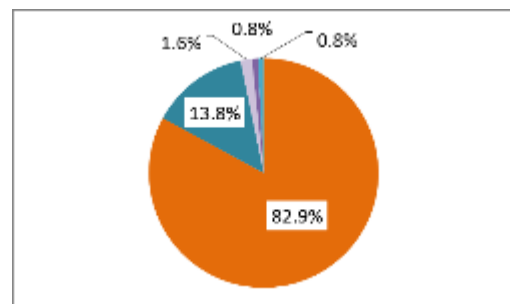


- 長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。

(実施前)



(実施後)



4 実践の成果と課題

- 成果 ○

がんは、検診を受けて早期発見・早期治療をすれば助かる確率が高いことを学んだことにより、がん検診への意識が高まるとともに、がんの学習が健康な生活を送るために重要であると認識している生徒の割合が高くなった。

- 課題 ●

「自分はがんにならないと思う」と回答した生徒が、授業の実施前後であまり変化が見られないことから、より自分のこととしてとらえられるような指導の工夫を図っていく必要がある。

また、「長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う」と考える生徒の割合が実施後に高まっていることから、体育分野と保健分野の関連を図り、効果的に指導を展開する必要がある。